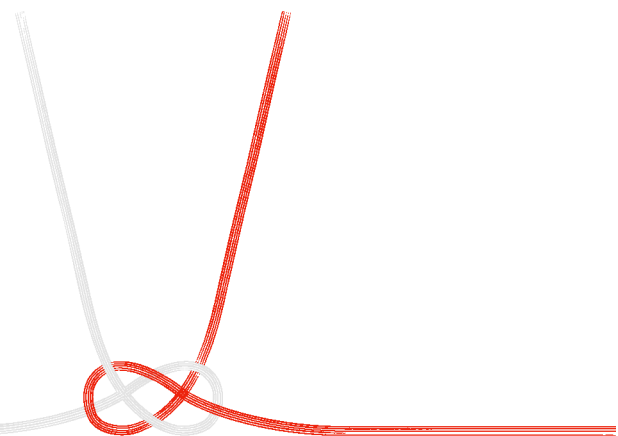


ふるさを想う わたしたちの声



2011年度30歳の成人式 in 与謝野の開催を記念して「ギフト」を進呈いたします。

一、ふるさとを想うわたしたちの声

2012年3月24日（土）

新 30歳一同より

(男・東京都足立区在住)

少子高齢化や経済の縮小、環境問題といった数々の社会的課題がありますが、そういった時代の閉鎖感も打ち破るような、創造性溢れているまちであってほしいです。

まちが創造性を持つためには、住まう人それぞれが創造性を高めていく必要があると考えます。そのための老若男女・多様な多彩な人たちが参加でき、創造性を高められる「場」を、積極的にファシリテートしてほしいです。

また、まちとしてもただ単に前例や慣習に従い、事なかれ主義の思想に従って、それまでやられてきたことを踏襲するだけでは足りないと思います。

住まう人が創造性を高めることができるまちになり、全国に知られたまちになれば、地元から離れて暮らす者にとっても、とても魅力あるふるさとになると思います。

地元にいることで、地元に戻ってくることで、自らの創造性を刺激され、高められるのであるならば、わたしたちのふるさとへの愛着は確実に高まっていくと思います。

このような偉そうなことを申し上げている私も、今年から東京にて、人生や生き方をテーマに、参加者同士が対話と自己省察を重ね、共に人生の主導権を獲得することを目的とした「塾」をはじめます。わたしたち一人ひとりが、いろんな人たちとの関わりのなかで、創造性を高めていく取組みです。

この取組みが形になり、軌道に乗れば、与謝野町でも同様のモデルを実施したいと考えています。これはきつと地域の活性化にもつながっていくでしょうし、わたしを18歳まで育ててくれた与謝野町への恩返しにもなると思います。どうか将来、その機会を与えて頂きますよう、お願い申し上げます。

30歳になり、自立と自律を胸に、主体的な選択のもと社会に貢献していきます。

(男・ひたちなか市在住)

自衛隊という職務上、全国を飛び回って仕事をしておりませんが、いつも「与謝野町地域ポータルサイト」や○○○○さんの情報配信により、自らの故郷のことを知り、自分になにかできることはないかと、常に考えております。

自衛隊に勤務しているという特性上、防災、減災、災害対処という観点から、与謝野町の活動を見るにあたり、消防、消防団との防災活動だけでなく、自衛隊を有効に活用する事を考察して頂ければ、今より更に強い防災組織が構築できるのではないのでしょうか。

東日本大震災でも我々の活動状況は確認して頂いているとは思いますが、自衛隊がその力を発揮するためには、やはり、自治体のリーダーシップが必要不可欠となります。

我々としても、国防という本来の任務から外れることになりましたが、国民を守りたいという部分では、与謝野町も自衛隊も同じであると考えます。ですので、今後の町の活動において、ハザードマップの更なる整備(分かりやすい)と断水時・交通網断絶時の自衛隊との連携要綱の構築、津波や原発事故時の住民避難方法の確立など、防災面の強化を要望します。

私も大切な故郷を守るために、できる事から支援をしたいと考えておりますので、どうかよろしくお願い致します。

(男・生駒市在住)

大学進学を期に奈良に住んでそのまま住んでいます。仕事の関係でウィークデイが休みなもので、与謝野町に帰るのも平日のため誰とも会う機会がなく、又、帰るのも年1回く2回がやっとです。今回、与謝野町を思い返すいい機会ができました。10代とは違う風景・情報が見えると思います。

(女・与謝野町在住)

社会に出て、仕事や結婚でなかなか会える事がないので、このような機会をつくってもらえて嬉しいです。ひとりでもたくさんの方と会えたらいいと思います。そして、今後もこの30歳の成人式が続いていけばと願っています。

(男・京都市在住)

いつかは帰郷したいと思います。

(男・奈良市在住)

今は離れたところで暮らしていますが、機会があれば帰郷したいと思っています。若い人の雇用場があり、一生、働き続けられる町であって欲しいです。

(女・与謝野町在住)

今回の事をきっかけに周りの人と「町」について話をする機会があり、今まで知らなかった事色々知ることができました。

その中でも、集めたゴミの捨てる場所、処分方法が確立されていないと聞きました。これからもどんどん出るゴミのことなので、将来が心配になりました。

(男・与謝野町在住)

与謝野町を元氣いっぱいなまちにしてください。神戸みたいにルミナリエをしてほしい。

(女・湖南市在住)

高校を卒業して地元・与謝野町を離れかれこれ11、12年経ち、今は結婚して与謝野町と同じような滋賀の田舎町に住んでいます。同じ田舎町でもやはりたまに与謝野町に帰ると落ち着きます。18年生まれ育った故郷にまさるものはないと思います。

今回、この機会に帰ることができうれしく思います。地元の人たちの暮らしがもっともつとよくなるように祈っています。

(女・名古屋市在住)

私は大学進学を機に、ずっと名古屋で暮らしています。離れた四辻で暮らしている祖父母のことが心配です。

昨年の秋、祖父が倒れ、それ以来ほとんどベッドで寝て生活をしています。今はデイサービスやショートステイに行っているようで、体を動かすようになってから少し元氣になったようです。

祖母は割と普通に生活しているようですが、病気をしてからあまり元氣がありません。買い物やおしゃべりで外出していた頃は、もつと元氣だったのにとおもいます。

人は、体を動かし、人とコミュニケーションを取ることによって元氣でいられるんだと思います。

高齢で動けなくなったり、家にこもったり、ということになる前に、「外出したい」「人と話したい」という元氣を維持させてくれるような場をつくってほしいだけではないでしょうか。お祭り、隣組みの集まりなど、一時だけのイベントではなく、コンスタントな集いの場があればと思います。例えば、公民館を喫茶店にしてみるとか！素人の考えなので、実現は難しいかもしれませんが。

営利目的ではなく、コーヒー50円とか抹茶十和菓子100円とか、気軽に通える場があれば、歩いて往復すれば体も元氣になりますし、人と話せば心も元氣になるとおもいます。

今年父が60歳になります。私たちの両親世代が元氣なお年寄りになってくれるよう願っています。

(女・加賀市在住)

30歳になり、みんなに会えるのが楽しみです。

(男・東京都在住)

今は東京で生活していますが、いつも故郷があつて良かったと感じています。また、故郷が与謝野町で良かったと感じています。

(女・与謝野町在住)

医療・福祉の充実

(女・与謝野町在住)

高齢者が多く、脳卒中発症率が高い地域なので脳外科に関する医療を充実させて頂きたいです。緊急患者が舞鶴まで搬送され、通院しなければいけない現状を改善させて下さい。脳外科の医師を常勤で配属し、緊急処置ができるように、脳、循環に関する医療に力を入れて下さい。

生まれ育つたこの町に、若者が帰ってきたくなるような町づくり、活性化をよろしく願い致します。

(男・宇治市在住)

お年寄りに優しい町にしてほしいです。お年寄りに優しい町では、家族の負担を減らし、仕事に専念できたり、お年寄り自身の活性化にもなるのでは。例えば、大きい病院行きの100円循環バスを運行するとか。各公民館を時間限定でお年寄りのコミュニティサロンとして開放するとか(水光熱費代として、1回1人100円の会費で、食べ物などは持参など)。

地元の雇用を増やす。全国の人が訪れる街作りができれば、雇用が増えて若者が残り、過疎化を止められる。例えば、自然を生かして、大人も子供も楽しめるアスレチックみたいなものをつくる。田畑を生かして農業体験イベントを全国の人に呼びかけて開催する。

田舎には田舎の良さがあるので、それを最大限に活かしながらさらに良い町になってほしい。

(女・京都市在住)

私はふるさとを離れて、もう15年くらい経つので、正直、町の方たちが何を求めてらっしゃるのか分かりません。でも、下記の3つの点が充実すれば、よりよい町になるのではないかと思います。

・医療

・若い人の就職先

・若い人からお年寄りまで元気に集まれるような施設

(女・与謝野町在住)

私には1歳の娘がいます。親子で参加できるイベントなどがあればうれしいです。

みんなが与謝野を好きになれるよう、子供からお年寄りまで、すくすく健康で暮らせるような町づくりをしてほしいです。

(男・与謝野町在住)

子供たちが安心して暮らせる町づくり、医療の充実、そして皆が楽しく安全に住める町づくりを希望します。

(女・与謝野町在住)

与謝野町内で働き10年になります。子供が生まれると女性はなかなか働きにくいと思うことが多々あります。職場に子供を預ける所(託児所)があれば、例えば、子供が少し風邪気味で保育園には預けれないと思うと、仕事を急に休ませていただかなくてはいけない時でも、安心して働くことができるように思います。また、保育園に子供を預けることのできる時間をどの保育園も共通に7時半になれば働く人には助かるように思います。

今以上に、町民全ての人が与謝野町に生まれてよかった、住んでよかったと思えるような町になることを強く望みます。

(女・与謝野町在住)

楽しみです！

(女・与謝野町在住)

20歳の成人式以降に、また、みんなで集まれる日が来るとは思ってなかったので、このような機会があり、嬉しく思います。これが、これからもつづいていくことを願っています。

与謝野町に暮らしている者として、三町が合併した今、どこを本庁舎にするかで、住民がもめている事が、とても残念です。早く解決して頂けることを望みます。

(女・与謝野町在住)

私は学校卒業後、地元を離れて就職しました。しかし、生まれ育った地元に戻りたくて、家族も思いはざつと頭の中になりました。私の場合は運良く与謝野町で職に就くことができ、家族もできて地元で生活することができました。

私のようにいつかは地元に戻りたいという思いを持ちながら進学、就職していく人は多いのではないかなと思います。そんな人たちがまた地元に戻り、地元で生活できる環境があれば良いですね。地元にいる私たちが、まずは町のためにできることを考えていかなければと思っています。

(男・与謝野町在住)

与謝野町が誕生して早6年、全国的は市町村合併の流れを受けて、旧野田川町、旧加悦町、旧岩滝町が合併したわけですが、何事にも一長一短があるように、与謝野も同様かと思っています。

私は旧野田川町で生まれ育ち、現在も三河内に在住しています。今まで旧加悦町だけだったケーブルTVが野田川、岩滝地域にも広がり、町の情報を得る手段になっています。また、様々な組織で旧3町の交流がしやすくなったように思います。例えば、私は与謝野町体育指導員として、町民への体育・スポーツの普及、振興に携わっています。野田川地域だけでなく加悦、岩滝地域の体育指導員さんと一緒にイベントの企画、運営することで交流の幅が広がっています。

しかし、旧3町でずっと大切にしてきたコミュニケーションについてはどうでしょうか。私は町の規模が大きくなった分、人と人との関わりが薄くなっているのではないかと感じることがあります。例えば、野田川地域で言えば、かつての町民運動会の廃止、納涼花火の廃止です。合併に伴い、ある程度、仕方のない部分もあるかと思いますが、人が笑顔になれる場が減っていくことは少し淋しく思います。

今回、30歳の成人式というかたちで久しぶりに同級生が集うわけですが、与謝野町の未来を背負っていくのは私たちだと思っています。しかしながら、地元に残る同級生はそれほど多くはありません。だからこそ、今回のイベントをきっかけに同級生のつながりを再度作り、与謝野町を盛り上げることで、人々の笑顔がひまわりのお手伝いをしてほしいと思っています。

(女・京丹後市在住)

都会に比べて賃金が安い。よい就職先があれば、若い人が帰ってきて活気つくと思う。今回の30歳の成人式という企画はナイスな考えであると思う。それはひさしぶりの再会で親しい関係になる人がいるかもしれない。独身の方にとって、それはふるさとで生活することにつながるから。

(男・与謝野町在住)

私は今、岩屋に住んでいます。が、過疎化が進んでいます。住宅を建てるなどして、若い人を岩屋に住めるようにしてください。このままでは、保育所や小学校がなくなってしまう。どんなことがあっても岩屋小学校を維持してください。

私には2人の子供がいますが、保育料が高すぎます。子育てにお金がまわせるように手当てなどが、町独自で行うようお願いします。

私は、去年、独立して事業を始めましたが、町は商工会まかせて何もしてくれませんか。ある程度の会社なら支援を受けられるのですが、零細企業は商工会の年10万の入会費も厳しく何の支援も受けることができません。零細企業でも家賃の保護や設備投資の資金を預けるようお願いします。

税金が高いです。税金タダのまちを目指してください。税收のかわりに町営の飲み屋、カラオケ屋、クラブなどを経営し、そこから税收を得たいと思います。

24時間営業の交通機関をつくってください。外でお酒を飲むことができないので、誰でも外で遊べるようにしてください。

老人が多すぎるまちなので、老人重視なのは分かりますが、子供や若い人への手当ても必ず忘れて下さい。

山田知事の言いなりにならず、独立国家をつくる感じで町政を進めてほしいです。

(女・与謝野町在住)

今、私には与謝野町で子育てをしている二児の母となりました。私の小さな時は、近所の人々が見守ってくれる地域で育てる育児がありました。幼稚園の頃、一人で遊びに行っていました。今では、車の中に子供をおいておく事さえできない時代になっています。その上、不況が続く、共働きが増え、幼稚園ではなく、保育園に子供を預ける家が増え、三河内幼稚園では、一学年10人前後です。とってもいい建物なのに、もったいないと思います。150人の定員で10人前後なんて普通の会社だったらとくに倒産です。延長保育や保育時間の延長(現在は14時まで)、保育リームを併設し、小さい子供の受け入れなど、時代に沿った育児、そして、なるべく、他の町に子供を預けにくいのではなく、地域に子供がいて、交流がもてる町づくりをお願いしたいです。

(女・与謝野町在住)

大学を卒業し地元へ帰り、就職、結婚し、子育てをしながら働いています。与謝野町は私にとって住みやすく、とても心おちつく心地良い町です。「子育てするならこの町で」という町のスローガンはびったりだと私は思っています。保育所は定員にゆとりがあるので、先生はじっくりと子どもに関わってくれます。とても素晴らしい先生ばかりだと思っています。都会に住む友人は、保育所に入れるのに抽選があり、それに選ばれないと入所できないと。たくさんの子ともだから、自分の子をしつかり見てくれるのかと不安を言っています。与謝野町に戻ってくれば良いのに、と言うと、必ず返ってくる言葉が、「仕事がないから」です。仕事さえあれば、地元に戻ってきたいと思う人はたくさんいると思います。是非、与謝野町に企業を！リフレが再開したことや、今年開業予定の方の老人介護の複合施設は地元雇用を促進するとともに、町が活性するきっかけになると思います。このような法人や企業が将来にわたって発展することを望みます。

都会には都会の良さが、田舎には田舎の良さが「住めば都」という言葉通り、与謝野町の良い意味での田舎らしさはずっと残してほしいです。これからも良き町でありますように。

(女・高浜町在住)

結婚をして、地元には住んでいませんが、主人や子どもたちに自分が育った町のこと、近所の人や友達、学校、お店などを知ってもらえることが、時々遊びに来る楽しみでもあります。特に加悦谷祭りは家族みんなが楽しみにしている行事です。これからも、ずっと続いていくように願っています。

(女・京丹後市在住)

私が故郷を離れ12年が経ちます。

その間に、加悦町、野田川町、岩滝町が合併し、「与謝野町」となるときは、自分の故郷がなくなるようで、とても淋しい思いをしました。でも、今は「出身どこ？」と聞かれ、自信を持って「与謝野町、旧加悦町です」と答えます。時々、「与謝野町？？？、あー」という反応が返ってくることもあり、与謝野町も知名度をあげるために、もう少し頑張らなければ！と思うこともあります。

それと、とても思うことは、雇用の面に入れて欲しいということです。私は地元を離れ嫁ぎました。もう、与謝野町民になることはないけど、定年を間近に控えた両親が与謝野町にいます。二人とも職を失わないよう必死に働いています。しかし、定年後に仕事がなく、今の政治のゴタゴタで年金ももらえず。となった時、私は両親を呼び寄せることも考えざるを得ません。そうになると、自分の故郷は全てなくなってしまいう気がします。そうならないよう、雇用の面に入れて、与謝野町が住みやすい場所になるよう期待しています。

(女・八尾市在住)

いつかは帰郷したいと思いますが、ある程度の収入と安定した職がなかなかないので、難しいのが現実です。地元に戻りたいと話す友人も多いですが、必ず話の中でくるのが「仕事がないあー、ないあー」という言葉です。

また、医療に関しては出産場所が少なく夜間診療がしてもらえないなど、地元での出産には不安があります。また、異常妊娠・出産に関しては、京都まで出産に来られている方も多く見かけました。出産後、何時間もかけて赤ちゃんに面会に来られる姿を見ると、北部での周産期・小児医療の充実を願うばかりでした。

老人の方も多いため、予防医療の充実もしてほしいと思います。

(女・京都市在住)

高校を卒業して以来、ずっと地元を離れて生活をしてきました。2年前に結婚し、子どもが生まれてから、地元に戻る機会が増え、学生の頃には感じることもなかった地元の良さを改めて実感しています。

道で出会った小学生や中学生がきちんとあいさつをしてくれることに感心し、地域の方々も気軽に声をかけてくださることに心温まり、また、学生の頃には敬遠していた地域の行事や祭りなども地元の人たちのつながりを感じるようになりました。

都会では、あまり感じることでできない人と人とのつながりや温もりやが、この町にはたくさんあると思います。

今はもう地元に戻って生活することはできませんが、これからも子どもを連れて何度も何度も遊びにきたいと思っています。

この先、何十年経ってもこの良い町が、今と変わらずありつづけてくれることを願っています。

(男・大阪市在住)

ふるさと納税したいです。

(女・京都市在住)

故郷を離れて10年以上が経ちました。私の母や祖母、姉夫婦は現在も与謝野町に住んでおり、時間があればなるべく帰省するようにしています。帰るたびに新しい道路が作られていたり、新しい道路ができていたりと活気を感じる一方で、閉店してしまっただけ「売物件」の張り紙が目立つ気もしています。

私は現在、京都市に住んでいますが、スーパーや百貨店などで丹後の野菜や魚を目にすると思わず買ってしまう。お米は与謝野町から取り寄せて食べています。本当に美味しいお米です。こんなにおいしいお米や魚、野菜が同じ京都にあるというのに、九州や北海道の食品がよくスーパーには売られています。なんだか悲しいです。

それと京丹後や宮津産のものはたまに目にしますが、与謝野町産のものに出会っていない気がします。この間は、伊勢丹でバラ寿司を販売していましたが、網野名物としての出店でした。いつか与謝野町産の店ができればうれしいです。

(女・与謝野町在住)

田舎で住んでいます。仕事をたくさんできるようにしてほしいです。みんなが病気にならないように予防医療を充実してほしいです。何かできることがあれば協力したいと思っています。

(女・与謝野町在住)

私は、学校を卒業してから、地元に戻り保育士をしていました。時代なのかもしれませんが、私たちが子どもの頃に比べると、外で思い切り遊ぶ、子どもの姿が見られなくなったように思います。海や山に囲まれ、自然豊かな町なので、子どもが成長するには、とても良い環境だと思えます。のびのびと安心して過ごせるよう、今後も自然を守っていけるよう一人ひとりが心がけていけばいいと思います。

あと、出産して分かったことは、妊婦検診の検査料の公費負担が与謝野町は充実していました。他の市の妊婦さんも驚かされていました(私は無料の時もあったので)。とてもありがたかったです。任意予防接種も公費負担してもらえるようなので、助かります。保健士さんも親切で話しやすく安心しました。

難しいことは分かりませんが、人とのつながり、思いやりを大切にできる、あったかい与謝野町であってほしいです。

(女・与謝野町在住)

地元で働きながら与謝野町消防団ひまわりふれ愛隊の活動もしています。所属して4年目になります。火災予防活動をするうちに、与謝野町の防災体制の整備を充実させてほしいと思います。これからもふれ愛隊の一員としての消防団活動を頑張っていきたいです。

(女・与謝野町在住)

私は高校を卒業してからも都会へ出ることなく地元に住み就職しました。結婚し、旦那さんと2人の時は住む場所もどこでもいいかなって感じて宮津市に住んでみたり、京丹後市に住んでみたりしていました。でも、子どもが生まれてそろそろ家を買おうってことになり、これから一生暮らしていく場所を考えた時、私はやっぱり与謝野町に住み続けたいと思いました。生まれ育ったこの与謝野町が私は大好きです。これからもずっと与謝野町で暮らしていきたいと思っています。

(女・木津川市在住)

私には、与謝野町で暮らす祖父母がいます。近くにいて見守れるのが一番ですが、私自身、町を離れて生活している為、なかなか難しい状況にあります。そこで、高齢者が安心して暮らせる町づくりをお願いしたいと思います。誰もが安心して年を重ねることができるよう、高齢者医療、サービス等を充実させてほしいです。また、子どもを育てる母として、少しでも出産・育児のしやすい町であることを願います。子どもの元気が町の元気につながることを信じています。

(男・大阪市在住)

大阪に住んでいます。今やっている事が与謝野町の向上につながるよう頑張ります。

(男・与謝野町在住)

生まれ育った町に貢献したいとはいつも思っています。

(女・京都市在住)

地元を離れて暮らすようになってから、もう10年以上経ち、時が過ぎる早さを実感しています。今では年に2回くらいしか実家に帰らないのですが、本当はもう少し帰れたらなと思っています。やっぱり長年生活したふるさとに帰ると不思議な安心感あるのです。

今回の30歳の成人式は仕事の都合で参加できませんが、これを機会に懐かしい友人などに連絡をとってみようかと思っています。

成人式当日の様子をHPにアップして頂けると嬉しいです。皆の成長した姿を楽しみにしています。

(女・与謝野外在住)

久々に帰省して思ったことがあります。

地元の自然はとても元気にしてもらえるものがありました。大分と変わってきたなと思うこともあるのですが、便利になってきている分、どこか人の本質的な部分を考えると、何かしら不便になってしまったと思うことはないでしょうか。人が生きていく為に大切なことを学んでいくのは、子どもの頃の遊びから大事なものを自然と身につけていくように思うのですが、今ではその遊びをする場所が消えていってしまっているように思うのです。

今、問題となっているコミュニケーション能力もその一つだと思います。子どもがその能力ができなくなっているのではなく、環境の受け入れ皿がないことが要因のひとつではないでしょうか。子どもが生き生きと育つてゆける環境であれば、地域の活性化へも自ずと繋がっていくと思います。

今の与謝野町が、よりこれから暮らしやすい町になってほしいと思っています。社会保障が充実してほしいとも思います。都会と比較をすれば地域の温もりを感じ嬉しい気持ちに幾度もなりました。

(女・八王子市在住)

大学進学を期に丹後を離れ、12年が過ぎました。

実家に帰るのは、お盆とお正月程度でしたが、2010年、第二子を出産するにあたり、10年ぶりに2ヶ月間、ゆっくり丹後で暮らしました。第一子を東京で出産する際、なかなか予約ができなかったこと。義実家がある岐阜県の街では、地域医療が崩壊寸前のため、里帰り出産を受け入れてくれなかったこと。こんな現実を見ていたので、与謝の海病院にもおそろおそろ電話したところ、予約不要ですよーとのんびり言われたことが、里帰りするまで本当に信じられませんでした。過疎は進んでいるのかもしれないませんが、医療は充実しているのかなと有り難く感じました。

その子どもがもうすぐ2歳、上の子どもは春で5歳になります。

昨年の東日本大震災では、こちら東京でも大変でしたし、正直、今も原発の問題で不安がないわけはありません。丹後も福井の原発から近いですし、過去には丹後大震災もあり、活断層が走っています。丹後を離れて長く、町や自治体での取組みをまったく存じ上げない私が、偉そうな事は言えませんが、有事への備えは万全であってほしいと思います。

これからの社会を担う子ども達の未来が明るいものでありますように。

(男・仙台市在住)

最近では第二の故郷である東北のことではいっばいで、加悦谷のことはあまり想う機会がなかったのですが、たまに帰ると、自分が暮らしていた頃よりも、若い人が増えているように見えて安心しています。ちなみにこの日は、自分の30歳の誕生日です。こんな盛大なお祝いをしてもらってありがとうございます(笑)。

(女・守口市在住)

地元を離れてから、地元に戻る機会はずごく減っていて、地元の人たちとも疎遠になりがちですが、テレビなんかで丹後や地元の人が紹介されているとすごく嬉しかったです。育った町はやはり特別。同じ町で育った人たちと再会できる機会、とても楽しみです！

(女・神戸市在住)

とても楽しそうなイベントに、今からワクワクしています！

(男・与謝野町在住)

「町内で企業し、町内の人を雇う予定であれば、起業費用は全額、町が投資する」。このような大胆な提案で、雇用を作るサポートをしようか。なぜなら同級生の中にも、「できれば生まれ育った地元で働きたいが、仕事がないので京都や大阪で働いている」とよく聞くからです。与謝野町の将来を考えると、仕事という選択肢がないのは非常にマイナスで、地元にいるものとしては非常に寂しいことだと思います。絶対的な解決案はないのかも知れませんが、何かアクションを起こさないと前には進まないと思います。

(男・与謝野町在住)

私は平成24年3月に30歳の誕生日を迎えた。30歳はやはり、私にとっても特別な節目であると思う。それは、20代で培ってきた経験や教養が試されるからだ。

ごまかしは効かない。私は30代をバラ色にするために、20代に様々な事を勉強してきたのだ。だから、私の30代は人生で最も輝く時にしたい。人生の勉強は終わらないのだから。

(男・与謝野町在住)

僕は、今回この「30歳の成人式」を行うにあたり、実行委員会のメンバーの一人してかかわることができたことを光栄に思いました。高校を卒業し地元を離れ、年に数回しか帰省することのなかった故郷でしたが、家業を手伝うために7年前に故郷に戻ってきました。それまで故郷のことなど生活するには不便な町だな、ということしか考えていませんでした。

しかし、仕事で住人の方とのふれあいや、地元商工会青年部での活動を通して、この町のことをより考え、接する機会が増えました。

特に青年部での活動の中で他業種の先輩達と関わる中で、地元の商業の活性化やふれあいをいかに増やすことが必要ではないかということ強く感じました。少子化や高齢化で過疎化が進む町でもう一度、人が集える場所を作っていきたいし、そのためにはまず人を集めるために観光客の誘致や地元商売の活性化が必要だと思っています。

また、実行委員会での活動の中で、同世代の若者がとても故郷に対して強い思いを持っていることも感じました。一人では何もできないけれど、今回のように大勢の人が集まりそれぞれ思いを持ち寄れば少しでも故郷の活性化につながるのではないのでしょうか。

地方に行った同級生たちもいずれ故郷に帰ってくるでしょうから、そのためにも、保育や福祉にと安心して暮らせる町であるために、与謝野町には、ぜひ、僕たちの思いをくみ取っていただき実現していただければ幸いです。僕たちもよりよい故郷になるように自分なりに頑張ってみたいと思います。

(男・仙台市在住)

1年目の今日を迎えて仙台から「ふるさと」について思ったことです
まあだいたい内容は推測できるとは思いますが最後まで読んでいただけたら幸いです

死ぬまで暮らしていけるふるさとがあること 帰るべきふるさとがあること
そんなことはあたりまえだと思っただけのこと

いま僕がふるさとを思うとき 飛行機は何時の便にしようかな
伊丹からはどうしようかな ANAのホームページと中学校の卒業アルバムを
互いににらめっこして 誰が来るのかな 喋ったこと無い人ばかりだったら嫌だな
なんて思いながらも ニヤケ顔が止まらないのですが

そんな僕にはふるさとの全てが波にのまれ ふるさとの全てが放射性物質に汚染され
住みたくても住めない 帰りたくても帰れない 集まりたくても集まらない
ふるさとを追い出された上に「福島だから」というわけのわからない理由で周囲から拒絶され

そんな人がいまの僕の周りにはいっぱいいます

がんばろうだとか絆だとか そんな言葉語るよりも
もし与謝野町の町並みが自然現象の力でめっちゃめちゃに破壊されたら
もし福井の原子力発電所になにか起こって与謝野町を出ていかなきゃいけなくなったら
もし福井の原子力発電所になにか起こっていつふるさとに戻るかわからなくなったら
与謝野町の出身だというだけで周囲から白い目で見られたら
与謝野町の出身だというだけで好きなお店に入れなくなったら
与謝野町の産品だというだけで全く売ることができなくなったら(↑これけっこう重要)
って想像してみてもほしいと思う

東北で起きていることを自分のふるさとに置き換えて しっかり考えていければ
1年後の日本はもっと元気だったんじゃないかって勝手に考えています

そこに残る思い出が いい思い出だろうが忘れたい思い出だろうが
ふるさとと呼べる場所が ふるさとと呼べる状態で日本のどこかにあること
それだけで幸せなことなんだっていうことを
東北以外の人達みんなに気づいて欲しいと思っています

10年以上ぶりに旧友と再会する場面で あんまり重たいことになっても嫌なので
特にこのメールをどうこうっていうわけではないですけど

パネルディスプレイか何かわからないけど 日本のアッチの方ではそういう現状があると
いうことをすこしでも触れていただけたらと思ったのでメールを送らせてもらいました
というわけで

なんやかんやで
こしばらくずっとニヤケ顔です

(男・与謝野町在住)

与謝野町に帰ってきて数年が経ちました。高校を卒業した時点、丹後に帰ってきた時点、共に、この場所には何も無いのだと感じていました。

意欲的な試みもない、何かに長けた人も居ない、天橋立以外にとりわけ、魅力がない：そんな風に考えていました。

しかし、仕事にも余裕が出始めた頃から地元イベントなどにも顔を出すようになり、改めて、地元の子カラを感じるようになりました。個人で、あるいは少人数の有志で、文化的な試みを続けている方が多数いらっしゃいます。またスポーツ面でも、熱心に指導をされている方々がいらっしやいます。丹後を代表する織物業もそう、観光業もそう、様々な分野でがんばっている方が、本当に数え切れないくらいいらっしゃいます。

そうした方々の声を聞くことなく過ごした地元での18年間は何だったのかと、30歳を迎えた今、強く思うのです。

一時期に比べれば、織物業をはじめとする

丹後、与謝野のあらゆる産業が悪化の一途を辿っていることは解ります。

しかしながら：「悪い悪い」、「せいぜいボチボチだ」と、

そのような言葉ばかりを聞かされて育った世代が地元に対して、

この与謝野町に対して、愛情を持つことが出来るのか、と思うのです。

私達の同級生には日本を代表するプロ野球選手がいます。

彼がプロの選手になったこと、日本のトップクラスまで登りつめたこと、

そのことに対して驚いたことはありません。

それだけの可能性が、この土地にはあるのだと思います。

可能性を理解し、「ダメだ、ダメだ」という発想から抜け出して、

明るい未来を、私達はもとより、より若い世代に提示していかなければ

私達が老後を迎える時代には、本当にどうしようもない現実しか無い：

正直、そんな危機感を抱いています。

天橋立がある宮津市のような観光地になることは不可能ですし、

すでに食の面で売り出している京丹後市や伊根町もまた、別の存在です。

近隣の市町村と張り合うのではなく、

共に調和しつつ、京都北部をいかにして盛り上げていくか、

少なくとも、勞せず通える範囲内に職場がある環境作り、それこそが今必要なことだと思います。

通勤に1時間前後かかるのなら、京都や大阪、その他の都市圏で仕事をした方が

給料も良い上、住環境も良い。

それが今の若い世代、共通の認識ではないでしょうか。

広大な土地の中で、方々が主張した結果、

あまりにも「疎」になっているのが与謝野町をはじめとする、北部の現状だと思います。

他の自治体において与謝野町にないモノを求めるのではなく、

今、この町に「ある」モノを、もう一度評価し、より付加価値を高めていく、

そんな取り組みが必要なのではないでしょうか。

この、『30歳の成人式』に出席したメンバーが

数十年後の与謝野町を担っていくことになりました。

その時に「どうしようもない：」と嘆くばかりの未来を回避すべく、

自分出来る範囲で、尽力していこうと思います。

町政を担う方々も、今一度、町の在り方を検討して下さい。

(男・与謝野町在住)

私自身、この生まれ故郷に再び戻り帰って早516年ですが、俗に都会と称する大きな外の街から移り住んだこの大きすぎない町は、私にとって改めて客観的に故郷を知るいい機会となりました。元々、自分自身が生まれ育ったこの自然豊かな加悦谷平野はとも今の自分の感性にも大きく反映されていると思います。子供を授かり次第、自分自身の生い立ちの様に、幼少の我が子の脳裏にもこの都会では味わえない空気、すばらしい自然環境の元で育って欲しかったこともあり、現在住まわせて頂いております。

現実には、地元の区、または自治会に溶け込んでいく上で、多少なり他府県都心部には伺えなかつた独特のシステムに驚いた次第です。私の仕事上、様々な地方・都心の方々と接する機会があり、地域の些細な情報や事情について議論する場面もあります。さすがに政令都市などの自治体などでは、大なり小なり味気ないお付き合いのご近所同士もあるのが現状ですが、私の属する与謝野町の地域においては知らない人がいない程、密なご近所関係を築けており、やはりこの様な温かい人々に溢れる町に再び永住することができうれしく思います。

しかし、一部の自治区においては、独特の風習が垣間見れるように思われます。最近、私の兄弟が加悦地区に住まいを築いたのですが、そこでは隣組の存在があるにも関わらず、町外からの移住者または新規参入者に対して、しかるべく挨拶がなされなければ、回覧板なども配布されない状態が現状の様です。

今日では、年々児童数も減っており、町としてせっかくの分譲や補助金など受け入れ体制はありながら、地域全体でNEW COMERを歓迎しないのは勿体ないと切に思いますがいかがお考えになりますでしょうか。無論、その他同様の一見些細な案件は多々あるかと思いますが、是非共活気溢れる与謝野町を一軒一軒築いていける様、一人の与謝野町民として心から応援すると共に、呼びかけていきたい方針です。



2011年度 30歳の成人式 in 与謝野

日時：2012年3月24日（土）

場所：野田川ユースセンター

主催 与謝野町 30歳の成人式実行委員会

後援 与謝野町

30歳の成人式推進委員会

連絡先 080-2077-4591（事務局）

URL <http://www.30seijin.org/>